

いるま

第35号

題字 会長
令和2年2月2日
発行者
井上 清

「間」の大切さ



「間」を辞書で調べて見ると、「次の動作や事柄までの時間」と

載っている。

私は普段「間」を意識して生活していない。以前、地域のソフトボールチームに所属し日曜日を楽しんでた。ある試合が終わった後で、相手チームのピッチャーの話になり、あのピッチャーは打者への「間」の取り方が上手で、なかなかタイミングが合わないという話になった。その「間」は、天性のものか、色々と思考し投げていく中で身に付けたものか、練習の中で知らず知らずに獲得したのかと想像を巡らしたことがある。私は、週三日学校ボランティアとして子どもたちや先生方と活動している。

副会長 船田 朋美

教師が身に付けたい指導技術で一番大切なものは、子どもたちとの接し方の「間」であると思う。あんなに熱心にやっているのに、子どもたちがついていけない、同じ教材で、同じように授業に取り組んでいるのに、成果があがる人と、あがらない人がいるのも「間」の取り方が一因であろう。朝礼で

脚下照顧

入間地区中学校長会長 小林 一康



平成から令和という、大きな時代の節目とともに、小中学校それ

ぞれで新学習指導要領が全面实施となります。各学校では、その対応に向け、計画の策定と職員の研修に力を注いでいるところです。

号令をかけているのを見ても、もう少し「間」を取ると、子どもたちも動きやすいのではないかと思う。指導力と言えどもそれまでだが、「間」の取り方に影響があるように思えてならない。「ころあい」つまり「間」がうまく取れる人と取れない人とは、指導に差が出てくると実感している。

教育の面だけでなく家庭で子育てをしている時など、ちょっと「間」を念頭に置き、余裕を持って考えて行動すると生活に変化があるのではないか。仕事を効率的にやっている人は「間」の取り方が上手である。人間関係でも仕事の面でも「間」を意識して取れるようになりたい。「間」は心にゆとりがあつて生まれるものであろう。

こうした改革、変革の基本には、常に時代の要請と、それに対応できる子どもたちの教育という、大前提があります。換言すれば、「変化の激しい時代を生き生きと生きたい」と願う子どもたちの思いに、心から感謝するとともに、今後の更なる発展をお祈り申し上げます。今後とも、皆様のご支援、ご協力をよろしく願います。

(川越市立霞ヶ関中学校)

時代の要請によって、教育の内容や特色は変化しても、この本質は変わることはない不易の部分です。「すべての学校、すべての教師が実践する」と、言うことは容易ですが、実践には多くの課題が生じることでしょう。その時こそ、それぞれの校長のリーダーシップが、今まで以上に問われることになりそうです。世代交代が進む現場において、校長に求められるリーダー像はさまざまです。その意味でも、校長自身がめまぐるしい変化に対応しなければならぬ時代と言えます。

しかし、こうした環境の中だからこそ、私たち校長が、目的を見失うことなく、自らの足下をしつかりと見据えて進むことを心がけ「脚下照顧の心」を忘れてはならないのではないのでしょうか。教育の不易に根ざし、時代の要請にこたえる教育の根本は、先人が残してくれた、「教育者としての基礎基本」にあると強く感じています。

教育の日協賛

教育推進研究協議会開催される

期日 令和元年十一月八日(金)
会場 所沢ベルヴィ ザ・グラウン

今年度の教育推進研究協議会は、所沢市退職校長会が担当し、盛大に開催されました。

来賓三名、小学校長四五名、中学校長二三名、退職校長六六名の一三七名が一堂に会し、三名の研究発表と研究協議が行われました。開会行事では、井上清会長の挨拶の中で退職校長と現職との連携を図ることが大切であるとの話の後、来賓の内藤隆行所沢市教育長、石田孝作埼玉県退職校長会長から今進めている事業概要等に触れながら激励の挨拶をいただきました。



会場風景

研究発表では、増田英明校長から「柳瀬小学校における学年担任制への取組」、山崎祐一校長から「躍動する大井西中学校づくりへの挑戦」と、着実に成果を挙げている教育実践の報告がありました。また、退職校長会の鈴木登喜夫氏からは、今年実施される東京オリピック、パラリンピックに関係して、「発智庄平翁と霞ヶ関カンツリー倶楽部」の報告がありました。

三名の研究概要は、以下に掲載しました。浅沼俊英西部教育事務所長から、「一寸千貫」の故事に触れられながら、的確で具体的な指導講評をいただきました。

続く懇親会では、一三名が参加し、来賓の内藤隆行教育長の挨拶に続き、石田孝作埼玉県退職校長会長の乾杯の発声により、盛大に開催されました。現職校長と退職校長とが和やかな雰囲気の中、学校経営等について語り合うなど、交流が深められ有意義な会となりました。

一 はじめに子どもありき
本校の学校教育目標は「心豊か
でたくましい柳瀬の子」です。子どもたちが生き生きと学び、心身を鍛え、たくましく成長する学校でありたい、という願いを持って教育活動を進めています。
しかし、集団になじめない児童やいじめ予防などの課題も存在します。

柳瀬小学校における 学年担任制の取組



所沢市立
柳瀬小学校長
増田 英明

え、両方の学級の児童にかかわるとともに児童の交流を進め、学級という垣根をなくしていこうと考えました。発達段階を考え、三年生以上で実施しました。具体的な取り組みについては、埼玉県公立小学校校長会「会報」九八(令和元年度)をご覧ください。実践の結果、児童アンケートでは、これまでより安心して学校に来ることができた、友達関係が広がった、意欲的に学習に取り組むことができるようになった等、良い評価を得ることができました。また、保護者アンケートでも、交友関係や教師の連携・協力による安心感等で肯定的な意見を多くいただきました。

また、新学習指導要領では、「チームとしての学校」による組織力の向上が示され、教師の働き方改革を踏まえて、これまでの学校の取り組みについて再検討が必要なのではないか、今後の学校はどうあるべきか、といったことに思い至りました。子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送り、より主体的に学ぶ学校にするために取り組もうと考えたのが、「学年担任制」です。

二 学年担任制の実践
学年担任制は、学級担任という考え方を变え、学年の先生全員が子どもたちを支援しようというものです。本校は各学年二学級なので、二人の担任が授業等を入れ替

の関係のスムーズさなどの意見が出ています。
三 すべての子どもたちのために
学校説明会などで保護者・地域の方のご理解をいただくと同時に教職員全員の協力により、取り組みを進めることができました。子どもたちにとって明日が待たれる学校を目指し、これからも全力で取り組んでいきたいと思えます。

数年前に大きな生徒指導上の問題を抱え、長年の学力低下も改善せず課題が山積していた本校。教育は人なりを支えに改善を図った。

○経営理念の周知・徹底

リーダーの理念が人や組織を変えたと信じる。理念を具現化できる言動と品格ある校長を目指す。経営方針の発表を決して年度当初のセレモニーにはしない。

○人材育成論の確立

「求めれば消える。与えれば生まれる」を信念とする。人は心で生きる、先入観で人を見ない、褒めると叱るの調和を図る事を教職員の指導や心の持ち方とした。

○実態把握

毎日、朝・昼・

放課後に校内巡視や授業見学を実施した。また、市費職員や業者や地域の声を求めた。その結果、生徒の自尊感情・保護者や教職員の愛校心・地域の学校への見方に大きな課題を発見した。

○課題解決への方策

まずは環境整備に尽力した。毎朝七時から一時間、放課後は四時から下校まで落ち葉掃きや樹木剪

定や雑草取りを始めた。通常清掃は毎回替えて生徒と共に無言清掃による雑巾がけを重ねた。

次に教職員の意識改革のため、

校長室だよりの毎日発行、学校だよりの巻頭言での地域への啓発、延べ四〇〇人の全校生徒との面接若手教員への放課後の勉強会を行った。また校内運営委員と市費職員への毎学期末の感謝状贈呈や学

躍動する大井西中学校
づくりへの挑戦



ふじみ野市立
大井西中学校長
山崎 祐一

級通信等の印刷物へのコメント評価等で教職員のやる気を喚起させた。更に本年度より他校に先駆けて地域協働学校を開始し、保護者や地域との絆の強化の枠組みを整えた。会長や会員とは、ほぼ毎日会話を交わし、相互理解や課題共有が可能となった。その結

果、学校の教育環境は格段に向上した。

○学校の変容

多くの地域の方より西中は変わったとの言葉を頂く。無言清掃は徹底し、生徒は落ち着きを取り戻した。長年の学力低下は今年の全国学テで市内一位の教科もあった。笑顔と挨拶と花に囲まれた大井西中づくりは今後も尽力したい。

いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが目の前に迫ってきた。東京オリンピックのゴルフ競技は、霞ヶ関カンツリー倶楽部で行われる。かつて国際大会が開かれ、ジュニアの大会等も行われているこのゴルフ場に、世界の一流選手や日本のトッププロが集まり、熱戦が繰り広げられる。

霞ヶ関カンツリー倶楽部の創設

に際して尽力されたのが、郷土の偉人、笠幡の大地主発智庄平翁である。庄平翁は、「領主の責任は、領民の生活を豊かに、安心して暮らせるようにすること」の考えのもとに、黒須高等小学校長、霞ヶ関村の村長、黒須銀行の創設、

埼玉育児院の創設等、教育、殖産、福祉に力を尽くされた。

その取り組みの一つとして、霞ヶ関カンツリー倶楽部創設にも尽力された。武士道につながるゴルフ、領民の働く場創設の理念の下、自分の所有する土地の借地代三年間無償貸与、建設費三万円の無利子貸与等を申し出、昭和四年に開場させた。昭和六年に西コースも

発智庄平翁と
霞ヶ関カンツリー倶楽部



川越班
退職校長会
鈴木 登喜夫

造られ、当時、東洋で最初の三六ホールある大きなゴルフ場であった。その後、太平洋戦争による閉鎖や米軍の接収等の幾多の困難を乗り越え、オリンピックが開催されるまでの立派なゴルフ場になったのである。

私は、生まれ育った霞ヶ関で開かれるオリンピックで、何かお役に立てないかと考え、都市ボラン

ティアに応募した。運よく霞ヶ関カンツリー倶楽部の最寄りの駅で、中国語で外国からのお客様の案内をする仕事をいただいた。発智庄平翁の崇高な理念のもとに造られたゴルフ場で催される大会に携われることに誇りを感じている。

多くの世界の国々や全国から来られる観光客の方々に、「日本へ来て良かった」「ボランティアの方々が、温かい心でいてねいに対応していただけた」と喜んでいただけたよう、しっかりと準備をして、オリンピックを迎えたいと思っている。発智庄平翁も、オリンピック・パラリンピックの開催を喜び、成功を祈っているに違いない。

会員の声

見えにくい子どもの内面

日高 山浦秀男

子どもたちの実態調査から、日本の子どもは、自己肯定感が他国に比較して低いという結果がでてくる。また、学習面や友人関係などで落ち込んだり悩みを抱えたりした時には、家族や友人に相談しながら解決をしている子どもが約七〇%、残りの約三〇%の子どもは「何もしたくなくなる」「物にあたる」「自分を傷つける」「体調が崩れる」といった状況に陥っているという調査結果である。そのため、これまで教師が行ってきた観察や面接などの方法だけでは、子どもの心理や行動を理解することが難しくなってきた。

私は、客観的なデータから子どもを理解するための「総合質問紙調査」の活用と、授業の中で「自己肯定感」を高める取り組みについて、全国の先生方と研修している。かけがえのない子ども一人一人が、自分らしく成長するために、今後もこの仕事を続けたい。

フォト短歌

狭山 永倉常一郎

短歌の結社に入会して十五年になる。当初は、ビギナーズラックで投稿して入選すると飛び上がった喜んだものだが、最近はどうも今は、結社への毎月十首の詠草を自らに課している。退職後は写真サークルへ入会し写真と短歌を融合させた「フォト短歌」を楽しんでいる。A3ノビまで印刷できるプリンターを新調し、気に入った写真は、短歌を添えてプリントアウトしている。自宅はもとより、とある場所で私のフォト短歌を展示させて頂いている。月に二回の入替えをノルマとし、花を撮りに祭りを撮りにあちこち出かけている。何よりサークルの方との撮影旅行が楽しみで仕方ない。

フォト短歌は、その時代その瞬間を生きた証。これからも大切に続けていきたい。

時の流れに身を任せて

川越 島村 勇

私が退職した平成十九年は干支が丁亥、今年令和元年は己亥。早くも一回り。時の流れの速さに驚

くばかりだ。

今私は、ちびっこ囃子連と足踊りでちよつとは知られた南田島水川神社の氏子総代会会長を仰せつかっている。川越祭りでは菅原町の山車に乗せていただき、その技と伝統をご披露している。

二年に一度四月の春祈禱の祭礼に合わせて南田島地区内を午前午後、山車の曳き回しをしている。巡行も壮観である。

どんな縁なのか、南古谷地区の交通安全協会の会長もお引き受けして忙しく日々を過ごしている。

そのようなわけで、「きょうとうときょうい」には事欠かない。ありがたいことです。合掌

地域・仲間とともに

入間 大室重喜

定年退職後三年間、藤沢公民館長を務め、地元で自治会で町内会長や自主防災役員を務めています。

本自治会では、神社の定例祭や区民祭・区民旅行などの企画・運営を手掛けています。特に、八坂神社の夏祭りでは、御神輿や山車などを先導し、野田の街を曳き回しました。準備や運営に時間と労力がかかりましたが、信頼できる仲間と一緒に心地よい汗を流す時間

は最高の喜びでした。

また、私たちは新たに区民広報誌の発行・倉庫の増改築や滝不動橋の架け替えに取り組みました。特に、広報誌の発行には、情報収集や記載内容・写真の掲載に細心の注意を払って会議・校正を重ねました。その結果、区民に親しまれる広報誌を発行することができました。

歴史探訪の旅

入間東部 深澤俊二

日本史にはあまり興味がなかった私だが、大河ドラマや空前の城ブームの影響で、定年後、全国の名所・名城・旧跡を訪れることが増えた。その多くが戦国や幕末期のものだが、歴史上ゆかりある地を書籍や歴史番組から得た知識を紐解きながら歩くと、その地の歴史的価値に改めて気付かされ、ある種の感動を覚えることもある。

特に城郭は面白い。城には攻防のための様々な知恵が堀や曲輪、天守等に巧みに隠されており、それらを見抜きながら歩くだけでも乱世を生き抜いた人たちの様々な思いを感じ取ることができる。好奇心が掻き立てられる一時である。城郭に限らず、歴史的価値の高い旧跡は数知れない。自分なりの



方法で知見を広め紐解きながら歩
く歴史探訪を今後も楽しみたい。

除草ボランティア

坂戸 長野佐七

退職して十三年を迎えています。

私が生活している地域は、坂戸市
の西の端に位置し、山あり川あり
の自然環境に恵まれていた所です。

しかし、夏は通学路に雑草が繁
茂してきます。地域でも年一回は
総出で除草等をしていきますが、と
ても草の成長に追いつけません。

そこで、時間的余裕のある私は、
通学路の草刈りをして、児童生徒
の安全を守ろうと思いました。草
は夏が伸び盛りです。朝夕の涼し
い時間帯に機械で刈ります。作業
が進むにつれ視界が開けます。そ
の瞬間、何とも言えない充実感を
覚えます。

夏の草刈りは大きなエネルギー
を必要としますが、自分の健康の
ためにもなっています。今後も通
学路の安全を守るために汗を流し
たいと思っています。

大抵のことには驚かないが

毛呂山 五十嵐京

我が家には、柿の木が数本あり
毎年収穫を楽しみにしている。今
年も多くの実が付いた。ところが、

夏を過ぎ、ほとんど実が落ち、気
づいた頃には残っている実も鳥が
ついばんで収穫することなく鳥の
餌となった。

驚いたことは他にもある。

台風十九号で近くの大谷木川が
越水し家の前の道が川になったり、
大臣がその後の説明もなく二人も
辞任したり、問題視されていた英
語の試験が何故か土壇場で中止さ
れたり、マラソン会場が突然変更
されたり、はたまた教員による教
員へのいじめが放置されていたり
と。人生古稀を過ぎ大抵のことに
は驚かないが、私にとって想像を
絶する事態を見聞するにつけ、美
しい日本が壊れていく様を実感す
る今日この頃である。

倅せ

所沢 横須賀邦子

私は、昭和で三十年、平成で三
十年の六十年の人生を過ごし、こ
の三月退職を迎えました。現在は
再任用校長として勤務しています。

保護者会で「昭和で六年、平成
で六年、令和になって六年分、頑
張ります」と伝えました。所沢市
立北小学校は、私の母校です。教
諭としてオープンスペースとなっ
た新校舎で務め、二十年後に校長
として：倅せです。

校庭には、二度目のオリンピック
クを迎える「五輪山」があり、体
育館には、卒業記念として贈った
演台があります。私を育ててくれ
た母校で：倅せです。

子どもたちに「人のために勉強
する」と伝えていきます。この言葉
のように、私も笑顔で人のために
生きていこうと思います。これが
私の：「倅せ」です。

山道を行く

所沢 柳下高明

近所の子どもたちが、天覧山・
多峯主山へ遠足に出かけたという
声を聞きました。暖かい日差しに
誘われて、私も久しぶりに山に向
かいました。隣県の里山で、老若
男女の笑顔と「こんにちは」の元
気な声をもらいました。一歳半の
男の子の手を引くお父さん。保育
園児を連れ乳児をおんぶ紐で背負
ったお母さん。私と同年代のご夫
婦とご高齢のお父様。前掛け姿の
近所のおばちゃん。また各地の山
道は、季節を越えて自然の素晴ら
しさを知らせてくれます。これま
で気づかなかった出会いに喜びが
増します。木々の大きさや葉の香
り。小鳥の鳴き声やかわいらしい
姿。動物たちとの突然の遭遇。こ
の夏、北アルプスで雷鳥の砂浴び

に驚かされました。自然や人との
出会いが、山道を行く楽しみです。

突発的なできごと

飯能 道谷内識

車の運転が好きである。仕事の
帰りなど普段と違う道をのんびり
走ることが楽しい。もちろん安全
には十分に注意を払う。高齢者に
よる交通事故が頻繁に起きている
昨今、決して他人事などと思わず
自戒する。特に注意を払うのは白
転車である。予測不能な動きをす
る場合が多く、路地から飛び出し
て来た時などひやりとする。

このような動きをするものは自
転車に限らない、過日、渋滞を避
けるためナビを頼りに山道を走っ
ていた。突然、飛び出してきた物
体に車の側面を体当たりされた。
物体は何もなかったかの如く走り
去った。正体は「鹿」であった。
修理代は痛かったが「鹿」には請
求できない。人でなくてよかった
と改めて思う。これを機により一
層の安全運転を心がけたい。



班だより

元気な会をモットーに

狭山班 牧 憲昭

令和元年度狭山市退職校長会は、三人の新入会員を迎え、七一名でスタートした。四月二十九日には会員四〇名の参加を得て総会が行われた。

○役員構成と役員会

顧問、会長、副会長(二名)、地区理事(四名)、監事、幹事(九名)、延べ十五名である。年六回の役員会は十三名で行われ、主に年六回の行事について担当幹事より提案される。会議終了後の懇親会は多岐に亘る話題で盛り上がり、楽しみの一つである。最近健康に関する話題が増えたか。

○行事について

六月「お楽しみゴルフ(その一)」十名参加。六月「ぶらり旅」。今年是新井薬師と哲学道公園散策、大雨予報のため中止。十月「親睦旅行」鎌倉方面、台風十九号の直撃により中止。令和はいかなる時代になるのか。十一月「作品展」。十二月「お楽しみゴルフ(その二)」。二月「教育を語る会」発表者二名。教育や退職後打ち込んでいること等テーマは自由。「学校との連携」七年前に

始めた人間川小学校での写真の展示に加え、さらに他にどのようなことができるのか、担当幹事を中心に現在模索中である。

○元気な会のための試み

「教育を語る会」に市内の現役校長を招待することを始めた。一昨年度八名、昨年度六名の参加があった。楽しい交流ができ懇親会は大いに盛り上がった。

また、昨年度より十二月の役員会に新入会員を招待することを始めた。和気藹々とした役員会の雰囲気を感じてもらうことが目的である。三名中一名の参加があり、顧問や監事の方々と交えて忘年会はいつも以上に盛大であった。

参加し易い活動へ

日高班 吉本祐一

今年度の会員は四五名、平均年齢は約七十一歳です。新会員は毎年あり、良い刺激になっています。

会員相互はとても和やかで、参加し易い雰囲気であると感じます。

しかしながら、若い会員は在職中が多く、行事等への参加率が低いため、どのように工夫したら参加しやすくなるのが課題です。

主な活動は、定期総会、年二回の研修会、懇親会、そして研修旅行です。

この二年間の研修会のテーマは以下のとおりです。

○「神社について知る」

○「比留間良八を追って。上野彰義隊の戦い」

○「武州一揆」

○「コミュニケーションスキルを基盤とした小中一貫教育」

これらの研修の講師については日高班の中から充てることを基本としています。昨年度から広く他班の方の優れた取り組みについて学ぶ機会を設けるようにしました。人間地区の皆様にご講師をお願いする機会が増えますので、その節はどうぞ宜しくお願いします。

研修旅行ですが、昨年は横須賀方面(横須賀軍港めぐり・記念艦



三島大社にて

三笠・横須賀美術館)に、本年度は沼津方面(沼津港・深海水族館・柿田川湧水池・三島大社)を訪れ研修と親睦を深めました。

ある先輩から「歳を重ねる度にも減ってくる」と聞きました。

「行く場所がある」「行けば仲間が待っている」「自分にも役割がある」「地域に貢献するきっかけにもなる」などの思いに伝えられる組織作りが必要なのではないかと考えています。これからも本会が参加したくなる集まりであるよう努力していきたいと思えます。



本年度総会にて

生きがい

「あいうえお」の人生

坂戸 南野和治

リタイア後の最大の願いは何かと考えてみた。様々な願いはあるが究極のところいくつになっても元気で長生きしたいということだ。

この事は私に限らずシニアの多くの人の願いだと思う。元気で生活し最後の「死を待つ時代」を極端に短くすることが理想の人生ではないだろう。そこで私は先人の健康で長生きした人たちや、現在私たちの周囲ではつらつとした生活を送っている先輩方に共通する「あいうえお」の生き方に注目した。「あ——新しいことに挑戦しよう——年齢に関係なく新しいことに挑戦している人は若い。当然挑戦に



講演活動をしている私

は失敗はつきものだが、現役の頃に比べてダメージは少ないと考える。私自身充実した現役を終了した直後は全くやる気なしの日々が続いた。そこで一念発起し資格取得に挑戦、幸い取得した資格を基盤として現在はささやかながら各地域で講演活動を行っている。

「い——今を生きる
今を楽しまないでいつ楽しむことができるだろうか。今の連続が人生そのものである。

「う——運動しよう
人間、体が動くうちは生命が維持すると言われる。中でも歩く（軽い運動）という有酸素運動がシニアには最適だと考える。

「え——笑顔
笑う門には福来る。笑いは免疫力をアップし、更に自律神経のバランスを整えストレス解消にもなる。お金もかからず副作用もない特効薬である。

「お——思いやり、奉仕の精神
あのシユバイツァー博士が「真に幸せになる人は人に奉仕することとを追求しそれを見つけた人だ」と述べている。私自身振り返ると思いやりに欠ける所が多々あったことを反省すること大である。以上の五つの生き方を日々実践し、生きがいある人生としたい。

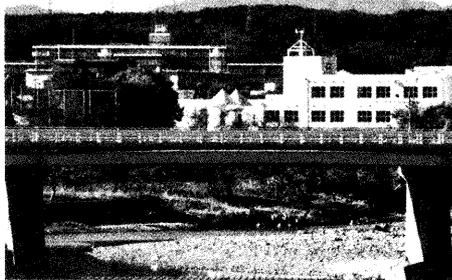
戸惑いつつ

狭山 本木淳一

この三月をもつてようやく「勤め人」生活を終え、無職になった。待ちに待った生活である。いろいろ考えてきたつもりだったが新しい生活は難しい。なかなか馴染めず、戸惑うことが多い。未だ生活のリズムができたとはいえないが、新しい生活の開始にあわせて始めたことを二つ。

その一 さやま市民大学に入学した。「狭山の歴史講座」に入り、毎週一回、講義を聞いたり市内の史跡・文化財巡りに参加している。日本の歴史の大きな流れと関連させながら地域の歴史を知ることが新鮮で楽しい。

生まれてからずっとこの地で生活しているので、幾つか見たり聞



富士を望みウォーキング

いたりしていることがあったが、初めて聞くこと、初めて見るものが本当にたくさんある。もっと早く学んでおくべきであったとつくづく思う。

講師の話に「なるほど、そうだったのか」と学ぶのはもちろんだが、講座の運営をサポートしたり史跡や文化財について説明したりする、講座の先輩方の意欲的な取り組みにとっても感心している。

その二 毎日歩くこと。意識して取り組まないと運動不足になるとの忠告を受けて始めた。適当な時間にいるところを歩いている。最近はい間川のサイクリングロードと遊歩道のコース、狭山稲荷山公園に行くコースが多い。川のコースでは、天気がよく富士山がよく見える。

相変わらず「ガラケー」だが、歩数計の機能のあるものに変え、ウォーキングシューズを新調して励んでいる。徐々にではあるが、歩くことが日常になりつつある。

「生きがい」といわれても難しい。まずは「することないなあ」とならないようにしたい。時間はあるし、その気になればできそうなのは沢山ある。必要なことをこなしながら楽しむことをさらに探していきたいと思う。

作品の窓

写真



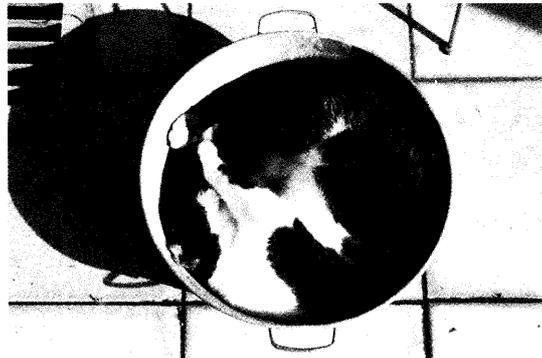
「ひとり紅葉を楽しむ」
川越 井上 清



「静寂」
鶴ヶ島 高橋 裕一



「隅田川のにぎわい」
飯能 佐藤 信弘



「ピットタンコ」
狭山 金子 弘之



「光の競演」
所沢 赤岩 克夫



「棚田の田植え」
狭山 木村 知生

編集後記

昨年(令和元年)の台風十九号の記録的な大雨は、広い範囲に甚大な被害をもたらしました。被害に遭われた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をお祈りします。

昨年五月に改元された「令和」の元号も、目を追うごとに生活に根付いてきました。秋には、天皇陛下の即位に伴う重要な数々の儀式が行われ、より一層慣れ親しんできたようです。

ここに会報三五号をお届けします。本会の活動の情報提供や、会員相互の親睦と交流を図るための原稿、作品をお寄せいただいた皆さまにお礼申し上げます。

毎号「班だより」を掲載していますが、各班の課題は魅力ある活動や活性化のようです。その解決の一つに、新会員の加入が共通して挙げられています。十一月には新入会員の集いが行われました。併せて、現職の校長先生にも配布されるこの会報が、この課題解決の一助となれば幸いです。(久田)

入間地区退職校長会会報

発行 令和二年二月二日

発行者 会長 井上 清

発行所 川越市並木新町一〇一〇

印刷所 川越印刷株式会社 TEL 049-222-1114